



# 入試説明会・校内見学会 参加者 四七二名

10月24日(土)

本校のPRと来年度の入試説明会を兼ねた校内見学会を本年も例年どおり10月24日(土)に実施した。参加者は残念ながら大幅に減少して、四七二名であった。(昨年度は五八九名)。内訳は、生徒三五一名、保護者四九名、教諭七二名、参加中学校数七九校であった。実施要領は、いつものとおり、約40名からなる班を12班つくり、

## 参加中学校都市別内訳

大牟田市	11	筑紫野市	1
久留米市	6	大野城市	1
大川市	4	三池郡	1
福岡市	4	八女郡	1
北九州市	4	浮羽郡	1
糸島郡	4	三井郡	1
春日市	3	筑紫郡	1
山門郡	3		
三潁郡	3	玉名郡	6
粕屋郡	3	荒尾市	5
八女市	2	玉名市	4
宗像市	2	山鹿市	1
朝倉郡	2	熊本市	1
遠賀郡	2		
小都市	1	佐賀市	1

計 79校

## 各学科等の見学場所及びテーマ

学科等	テーマ	見学場所
図書館	図書館	図書館2階
電子計算機	電子計算機設備	電子計算機室(図書館3階)
一般科	L・L設備	3階 L・L教室
工業化学科	有機化学実験	2階 実験室
	(物質の精製法) 化学工学実験の展示	1階 実験室
電気工学科	電気機械実験	1階 電気機械実験室
	ロボット・パソコンのデモ	2階 電子実験室
	通信実験 LAN設備	2階 通信実験室 2階 LAN実験室
建築学科	各学年の設計製図及び造形の作品展示	1階 造形室
	各種試験機とそれによる実験結果	1階 構造実験室
機械工学科	NCフライス盤実習	1階 工作実験室
	旋盤実習	1階 機械工場
	引張試験	1階 材料実験室
	振子時計製図展示	1階 機械科ホール
総合実習センター	製図展示	1階 精密実験室
	構造物の風による振動	1階

## 入試説明会・校内見学会アンケート結果

回答	回答 記入者	生徒	教諭	保護者	計
1 総参加者数及びアンケート記入者数	参加者	351名	72名	49名	472名
	アンケート記入者	342	42	37	421
2 「入試説明会、校内見学会」に参加することを決めたのは(生徒のみ集計)	自分で	304			342
	保護者のすすめ 先生のすすめ	10 28			
3 あなたは有明高専をどの程度知っていますか	ア. よく知っている	11	3	1	15
	イ. ある程度知っている	172	22	13	207
	ウ. あまり知らない	158	15	23	196
4 あなたの身内の人で有明高専を卒業された人、在学中の人がいますか	ア. 卒業生がいる	25		2	27
	イ. 在学生がいる	37		4	41
	ウ. いない	288		31	319
5 あなたは有明高専を見学されて、「高専」についてある程度理解が深まったと思いますか	ア. はい	267	42	33	342
	イ. いいえ	7			7
	ウ. 分からない	61		3	64
6 あなたが有明高専を見学されて感じられたことは	ア. 施設が整っている	232	24	22	278
	イ. 実験設備等が充実している	141	18	21	180
	ウ. その他	4	2	2	8
7 このような行事は何月頃実施したほうがよいと思いますか	ア. 8月	73	13	9	95
	イ. 9月	68	6	2	76
	ウ. 10月	154	21	18	193
	エ. 11月	33	1	3	37
オ. その他の月	13	1	2	16	

△生徒のコメント▽  
 ○さすがに国立はすごい!  
 ○大学のような学校だった。  
 ○実際にコンピュータなど使ってみて良かったです。  
 ○クラブ見学がないのが残念だった。  
 ○すごく広いと思いました。すごい一言です。  
 ○女子についてもっとくわしく知りました。  
 ○是非入学して、コンピュータなどを動かしてみたい。

△保護者のコメント▽  
 ○もっと入学者をふやして下さい。  
 ○希望学科毎の見学も良いと思っただ。  
 ○いい勉強になりました。

△先生のコメント▽  
 ○説明が中学生にはややむづかしすぎたのでは  
 ○生徒による発表であれば、もっと充実すると思います。

## 中学校訪問

昭和50年に実施した後、11年間中断していた中学校訪問を行った。前回は八代高専新設にからんで、入学志願者が減少したのに対応して行われた。今回はある意味では将来展望に立った中学校訪問である。反省会をもったが、中学校とのコンタクトを密にし、中学校の先生のお話をうかがうのは有意義であったという意見が多かった。主任を中心に各科の協力を得て、本校を中心に半径約30km内の中学校を訪ねた。訪問地域は次の通り。  
 ○福岡県・大牟田市・三池郡・山門郡・柳川市・筑後市・八女市・八女郡・大川市・三潁郡 ○熊本県・荒尾市・玉名市・玉名郡・山鹿市・鹿本郡・菊池市・阿蘇郡 ○佐賀県・佐賀市・佐賀郡・三養基郡・鳥栖市 116校

## 昭和63年度編入学試験

8月24・25日の両日、工業高校生を対象にした編入学試験が行われた。志願者は、機械工学科4名、電気工学科2名、工業化学科と建築学科が各1名の計8名であった。選考の結果、次の3名が合格した。  
 機械工学科 境 強(玉名工業高校)  
 電気工学科 米田聖一(玉名工業高校)  
 建築学科 福田雄一(熊本工業高校)

## 62年度 公開講座

本年度は、三つの公開講座が開講された。一つは一般市民の方々を対象にした教養講座で、本校の各学科の教官が、それぞれの専門の立場から興味深い題材を選び、平易に解説するアラカルト方式のもので「技術と文化の話」と名称が付けられている。本講座は三年目になるが、毎年受講されておられる方もあり、内容的には有意義であると思われる反面、受講者数が定員に満たず、開講方式等の面で改善が必要と思われる。

### (1)「技術と文化の話」 7月20日(月)~7月24日(金)

- 実施場所：有明工業高等専門学校 視聴覚室
- 募集人員 25名
- テーマ・講師及び日程

学科名	テーマ	講師名	備考
建築	○九州の飛躍と有明海	松島 寛治	7月20日(月)~21日(火)
化学	○単位について	永田 良一	7月21日(火)
一般	○歴史の見方・楽しみ方	丹後 杏一	7月22日(水)
機械	○熱機関一口講	倉橋 完充	7月23日(木)
一般	○ドイツあれこれ	瀬戸 洋	7月24日(金)

本年度は、三つの公開講座が開講された。一つは一般市民の方々を対象にした教養講座で、本校の各学科の教官が、それぞれの専門の立場から興味深い題材を選び、平易に解説するアラカルト方式のもので「技術と文化の話」と名称が付けられている。本講座は三年目になるが、毎年受講されておられる方もあり、内容的には有意義であると思われる反面、受講者数が定員に満たず、開講方式等の面で改善が必要と思われる。

### (2)「マイコン入門教室」 7月21日(火)~7月24日(金)

- 実施場所：有明工業高等専門学校 電子計算機室(演習室)
- 募集人員 30名
- 講師 本校電気科教官 荒木教授以下6名
- 内容及び日程

月・日(曜)	時間	公開講座の内容
7月21日(火)	9:00~9:30 9:30~11:30 11:30~12:30	開講式 コンピュータ概論 BASIC入門(1)
7月22日(水)	9:00~11:00 11:00~12:30	BASIC入門(2) プログラミング演習
7月23日(木)	9:00~11:00 11:00~12:30	BASIC入門(3) プログラミング演習
7月24日(金)	9:00~11:00 11:00~12:00 12:00~12:30	BASIC入門(4) プログラミング演習 閉講式

### (3)「企業技術者のための建築構造基礎講座」 6月10日(火)~7月22日(木)

- 実施場所：長洲中央公民館 教養室
- 募集人員 25名
- テーマ・講師及び日程

日程	テーマ	講師
6月10日(火)	建築構造に関する基礎知識について	玉野
6月17日(火)	鉄骨造組構法の仕組み	原田
6月24日(火)	鉄骨造トラス構法の仕組み	吉岡
7月1日(火)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨組の詳細に関する講義	玉野
7月8日(火)	わかり易い構造力学 鉄骨工事の概要	上原 玉野
7月15日(火)	鉄骨部材の設計のあらまし	原田
7月22日(木)	鉄骨工作図の描き方	玉野 外

本講座は民間企業の要請により開講されたもので、造船不況のために造船関連工事から建築鉄骨工事へ業種転換を迫られている民間企業の機械技術者に、建築構造の仕組み、建築構造力学、鉄骨工事等についての講義と建築設計製図及び鉄骨工作図の描き方について



「マイコン入門教室」受講風景



「マイコン入門教室」記念撮影

学生諸君へ

宮川 英明

空は青く澄みわたり、借家の隣りの老夫婦のいる庭には色とりどりの秋の草花が咲き乱れ、道行く人の目を惹きつけている。五月に九大、総理工、吉永研究室へ内地研究に来て早くも六ヶ月が過ぎた。今では大学院生に囲まれて楽しく研究している。ここは工学を志す若者の情熱と活気が満ち溢れている。彼らは、自分の頭で考える訓練を受けていて、それが大きな力になっている。この習慣を身につけることは、非常に大切なことである。

諸君が授業で新しい定理を教わったり、本を読んで新しい考え方に合う時、そこで述べられた順序に従って考えを進め理解する。しかし、これはまだ理解の第一歩にすぎず、教える人の、あるいは著者の思考回路に従って眺めているに過ぎない。自分の頭を使っているのを見たり、離れて他の定理との関連で眺めたり、時には逆位置から触れたりして、その奥に含まれている原理を、自分の言葉で表現出来てはじめて理解できたことになる。授業を聴くだけで、予習も復習もあまりしない、試験の為に勉強だけでは、本質を理解するには程遠いし、まして、それを応用することは不可能に近い。若いう

ちに自分の言葉で考え理解する習慣、物理的イメージで式をとらえる習慣を養いたいものである。研究室では、高専生と同じように工学の世界で生きていこうとしている若い人達が、文字通り作業の実験に日夜努力し、自分の頭で考え大いに苦しんでいる。最先端の研究に関しては、一年前の議論はもう古くなった感じがする。それ程のスピードで進められている。しかし、基本的な考え方や原理は変わるものではなく、高専で諸君が学んでいる事と同じである。授業で教わる基礎を、高専時代にしっかりと自分のものとして理解していけば、諸君の将来は大きく拓けてくる。

使いは動力録ではわからない。手作業でしかわからないのである。青春時代にこの手作業の世界をしっかりと体験しておくことが大切ではないか。手作業の世界でこそ人は成長し、心も豊かになる。テレビの映像を送られるまま見るのではなく、命をかけて書かれた書物を紐解いて、活字を一つ一つ拾っていく読書の世界、汗にまみれた訓練を通して技をチームワークを一つ一つ積み上げていくクラブ活動等、いずれも手作業の世界である。物質文明が進めば進む程、便利さだけ、合理性だけを追求しては人の世は住みにくくなる。このような手作業の世界で身体を鍛え心を養い、バランスのとれた、土台のしっかりとした技術者を目指してほしい。

宿主の方々は、それを受けて、いくつかの話題を出されたが、全般的な意見として、下宿生がおとなしいのでいかどうかわからない、アルバイトなどで帰りが遅い、夜が遅い、自炊しているので食事が心配だ等、下宿生にいくつかの気を付けねばならない点が出された。

岡市美術館 5月27日 5E  
明電舎技術展 6月24日 5C  
九州工業技術試験所・ブリヂストンサイクル(株)旭工場 6月24日 5E  
三菱重工(株)長崎造船所香焼工場、長崎研究所・三菱電機(株)長崎製作所 7月2日 5A  
熊本大学卒業設計展 7月3日 4C  
(株)ブリヂストン・日本ゴム(株) 7月10日 2C  
熊本凸版(株)精密電子工場 9月10日 11日 1M  
ブリヂストンサイクル(株)旭工場・九州松下電器(株) 9月10日 11日 2E  
三菱電機(株)福岡製作所・九州電力(株)玄海原子力発電所 9月18日 19日 2A  
平原青少年野営訓練所 9月30日 4M  
日立造船(株)有明工場 9月30日 5A  
(株)三井三池製作所 10月22日 23日 3A  
東陶機器(株)・北九州市立図書館・段谷産業(株)・新日本製鐵(株)八幡製作所・三菱鉱業セメント(株)黒崎工場 10月27日 28日 2M  
平田機工(株)・三菱電機(株)熊本製作所

下宿主との懇談会

六十二年度の下宿主との懇談会は七月三日(金曜日)に、修己館一階の研修室において行われた。下宿主のご出席八名、学校からは校長・三主事・主事補・五年生クラス担任・3Cと3Aのクラス担任・学生課の計十五名が出席し、約二時間にわたり懇談した。まず、校長から挨拶があり、下宿主の方々の日頃のご苦労に感謝し、下宿生は地域と直接交流して

工場見学等

5月13日 14日 5M  
(株)安川電機製作所・三菱化成工業(株)黒崎工場・新日本製鐵(株)八幡製鐵所・黒崎窯業 5月13日 14日 3E  
新日本製鐵(株)戸畑製鐵所・(株)安川電機製作所・児童文化館 5月15日 16日 5A  
福岡銀行本店・福岡市庁舎行政棟工事現場・福岡国際センター・福岡市美術館

5月27日 5E  
6月24日 5C  
6月24日 5E  
7月2日 5A  
7月3日 4C  
7月10日 2C  
9月10日 11日 1M  
9月10日 11日 2E  
9月18日 19日 2A  
9月30日 4M  
9月30日 5A  
10月22日 23日 3A  
10月27日 28日 2M

私を毎日通っている道路に面して、つじを植えた公園の花壇がある。初夏と初秋の頃二回動力式の鎌を使って見事に手入れがされた。ところが植込みの中の草は、つじの背丈より上に出ている部分だけ、これも動力式の鎌で刈られただけで、中の草はそのままであった。これでも遠目には美しくつじに見える花壇になった。しかし、植木の手入れで一番肝心なところは枯れかかっている。今ではつじは期待できまい。汗を流して、花は期待できまい。汗を流して、手を使って一本一本草を取る作業は能率も悪くつらいものである。時には手が傷つく。しかし、土のぬくもりやあたたかさ、植物の息

約二時間にわたり懇談した。まず、校長から挨拶があり、下宿主の方々の日頃のご苦労に感謝し、下宿生は地域と直接交流して

の老夫婦のいる庭には色とりどりの秋の草花が咲き乱れ、道行く人の目を惹きつけている。五月に九大、総理工、吉永研究室へ内地研究に来て早くも六ヶ月が過ぎた。今では大学院生に囲まれて楽しく研究している。ここは工学を志す若者の情熱と活気が満ち溢れている。彼らは、自分の頭で考える訓練を受けていて、それが大きな力になっている。この習慣を身につけることは、非常に大切なことである。

の老夫婦のいる庭には色とりどりの秋の草花が咲き乱れ、道行く人の目を惹きつけている。五月に九大、総理工、吉永研究室へ内地研究に来て早くも六ヶ月が過ぎた。今では大学院生に囲まれて楽しく研究している。ここは工学を志す若者の情熱と活気が満ち溢れている。彼らは、自分の頭で考える訓練を受けていて、それが大きな力になっている。この習慣を身につけることは、非常に大切なことである。

の老夫婦のいる庭には色とりどりの秋の草花が咲き乱れ、道行く人の目を惹きつけている。五月に九大、総理工、吉永研究室へ内地研究に来て早くも六ヶ月が過ぎた。今では大学院生に囲まれて楽しく研究している。ここは工学を志す若者の情熱と活気が満ち溢れている。彼らは、自分の頭で考える訓練を受けていて、それが大きな力になっている。この習慣を身につけることは、非常に大切なことである。

第21期生 卒業研究テーマ

昭和63年3月卒業予定学生諸君の卒業研究テーマを学科別に示す。報文番号・報文題名・指導教官名・学生氏名の順に示す。

機械工学科

- 1. 油圧サーボに関する研究(川崎) 毛利健一・前田幸人
2. リレー制御系のロバスト性に関する研究(川崎) 香月洋祐・松尾 淳
3. 回転壁面噴流の安定性に関する研究(山下) 宇佐隆宏・鳥飼幸裕
4. 熱間鍛造用全型の研究(南) 石野善則・今村 修
5. 深穴加工における穴の曲りに関する研究(田口) 亀山成明・六倉清晴・山迫 洋
6. チゼルレスドリルの性能に関する研究(田口) 久家雅道・石橋 整・田中智樹
7. 二重管熱サイホンに関する研究(吉田) 瀬戸隆士・林田弘安・江藤公俊
8. 水平伝熱面からのサブクール核沸騰熱伝達(庵原) 川野智幸・洲崎康之・小柳 優
9. 浮動プッシュ軸受に関する基礎研究(高速軽荷重の場合)(倉橋) 黒田康夫・小茂田洋一
10. 浮動プッシュ軸受に関する基礎研究(低速重荷重の場合)(倉橋) 楠 秀之・田代一宏
11. 複合流路におけるクロスフローの研究(猿渡) 松岡 守・松藤克彦
12. T継手における気液二相流の流動特性(猿渡) 中島良介・中村智則
13. 銅・ニオブ・りん青銅積層板の加熱による拡散(小田・南) 東 智巳・今村智弘
14. 爆発硬化高マンガン鋼のX線残留応力測定(大山・小田) 吉村浩一・坂巻憲一
15. 爆発硬化高マンガン鋼の疲労強度(小田) 古川隆幸・福嶋健一
16. 高マンガン鋼の疲労き裂伝ば特性(大山・小田) 原田義弘・南 健一
17. 学習要素の階層的構造について(石崎) 三笥 聖・吉田孝文

電気工学科

- 1. デジタル制御の基礎研究(荒木) 小川正弘・中村真吾
2. パソコンを用いたCAI教材の開発(荒木) 沖 和彦・杉田幸治
3. 自動倉庫のシーケンス制御に関する研究(須藤) 赤尾正光・新谷満徳・井原隆敦
4. 多値論理回路の研究(辻) 松永英郎・前田和喜
5. 線形回路過渡応答プログラムの作成(辻) 西山典孝・岡田浩二
6. CCDを用いた微小変位の測定(近藤) 弥山純之・中野雅章
7. PALライタの試作(近藤) 堀 昌浩・緒方良男
8. 同軸円筒電極におけるコロナ放電特性(浜田) 山浦英海・田代信二・星山勝己
9. 磁歪振動の測定(小沢) 坂口健児・西山 亮
10. 磁歪振動の応用(小沢) 新谷俊幸・岩田文明
11. Z-80TUTORの作成(松野) 野田勝之・石川智章・田中 穂
12. ホログラフィー干渉法による振動解析(永守) 上川忠男・佐藤茂雄・島 宣博・小林明雄
13. 多重掃還方式DC-DCコンバータの特性解析(中原) 壇 英雄・杉野知広
14. フォワード形コンバータにおけるスイッチング雑音の周波数スペクトル分析(中原) 渡辺栄洋・浜村 直

工業化学科

- 1. 沈澱シリカ表面の熱による変成(木佐木) 竹下 茂・堤 速人
2. 沈澱シリカ表面の有機金属による変性(木佐木) 林 真一郎・猿渡貴志
3. コレステロールオキシダーゼによるコレステロールの酸化反応(永田) 園田寛彦・吉永克也
4. オイバゲットC粒子による酵素の固定化とその利用(永田) 田中 貢
5. グルコースセンサーによるグルコースアノマーの異性

- 化速度定数の測定(永田) 中富 健
6. パソコンによるデータ計測についての検討(永田) 高崎貴浩
7. ポリウレタンの熱分解に関する研究 第18報 Pyr-GC及びPyr-GC-MSによるポリウレタンの熱分解の検討(吉武) 荒巻浩明・古賀 努・田中秀一
8. 親水性ゲルの製造(松本) 浜地憲治・平木世志実・渡辺政之
9. 疎水性ゲルの合成(松本) 川口 仁
10. イオン交換体によるタンパク質の吸脱着性(松本) 宅島秀典
11. イオン交換体の製造(松本) 堤 誠司・林 正道
12. 低圧下における気液平衡関係の測定と熱力学的健全性の検討(渡辺) 赤星幸洋・大久保泰輔・坂元伸一
13. パソコンによる気液平衡データの整理と熱力学的健全性の検討(渡辺) 小川和雄・原賀孝昭
14. γ型CMDのLi-MnO2乾電池材料への応用(宮本) 小田哲也
15. γ型CMDのアルカリ-MnO2乾電池材料への応用(宮本) 林 哲也
16. γ型CMDの合成とその分極特性(宮本) 樋口 功
17. γ型CMDのZnCl2型乾電池材料への応用(宮本) 森田良一
18. Poly(4-hydroxystyrene)の非摂動広がり温度係数(氷室) 井藤美幸
19. 卵製アルブミンの粘度とその温度依存性(氷室) 今岡健哉
20. Poly(4-acetoxystyrene)の準希薄溶液の粘度(氷室) 宝部信行
21. Poly(4-acetoxystyrene)の非摂動広がり温度係数(氷室) 松井利一
22. Poly(4-hydroxystyrene)の合成とその溶液物性(氷室) 山崎博文
23. 高分子膜型界面活性剤イオン電極の試作(正留) 加藤真吾
24. Coated wire型界面活性剤イオン電極の試作(正留) 徳丸智昭
25. O-NPOE可塑化PVC膜型界面活性剤イオン電極の種々の陰イオンに対するの応答特性の検討(正留) 中山幸二

建築学科

- 1. 有明海総合開発計画の基礎的研究(松島) 影浦弘治・中尾昌敏・湯村澄広
2. 鉄筋コンクリート柱の動的挙動に関する研究(玉野) その1 使用材料の動力学的特性
その2 斜張力ひびわれ機構解析
その3 RC柱の動的耐力に関する実験的研究
桂城 剛・桜井孝弘・貞末高志
布上文明・早川徳昭・吉住英介
3. 太陽熱利用に関する実験的研究(吉岡) 稲田富士樹・茨木裕仁・吉田雄一郎
4. 平均応力のある低サイクル疲労寿命(原田) 岡本勝次・田中慎也・渡辺三喜
池田有朋・上田和弘
5. 欧米の病院建築計画に関する研究(最近の新しい設計手法について)(新谷) 香葉村主税・茂浦口寛
6. 小学校の建築計画に関する研究(最近の新しい設計手法の検討)(新谷) 福田英治・村上 忠
7. 居住水準の地域性に関する研究(北岡) 伊藤義徳・谷本篤史
石田由紀子
8. 障害児教育施設に関する研究(北岡) 石田由紀子
9. 明視照明に関する実験的研究(視力と明るさ、対比との関係について)(山下) 鬼塚和彦・柴原 健
加藤 昇・斎藤裕幸
10. マイコンによる日影図の作成(山下) 池田義祐・森 年幸
11. 住宅における厨房の発展過程に関する研究(宮本) 池田義祐・森 年幸
12. イスラム建築に関する基礎的研究(宮本) 荒木博之・磯部能文
13. 剛体-バネモデル(RBSM)法における鉄筋コンクリート平面要素の構成則に関する基礎的研究(上原) 坂本 圭・玉井孝幸・畑川真由美

# 有明 図書館だより 55

## ウィーンの図書館と本屋を歩く

図書館長 丹後 杏一

ウィーンは観光客にとっては過し易く楽しい町である。一人で自由にどこでも歩けるし、物騒な感じの人、いかがわしい人々も少ないし、パリやイタリアのようにすりや置き引きに遭うこともなく、さればといって同じドイツ語圏内でもドイツやスイスのような極度の清潔感や人種偏見もないから、ヨーロッパの中でも最高にくつろげる町ではないだろうか。

八月六日(木)、ホテルを出て市中をひとり徘徊す。ひとり歩き気楽さでその間いろいろと興深いハブニングなどもあったが、それらは一まず置き、ここではオー



オーストリア国立図書館内部

ウィーンの種類他の公共建造物の場合にも共通して言えることであるが、建物の入口の簡素で地味な外見にひきかえ、その内部の壮麗さ、豪華さはそれこそ筆舌につくし

がたいものがあった。館内の全体的な感じは勿論今日の一般の図書館とは異なり、まさに旧時代の宮廷内図書室そのままの趣きが保たれているというべきか、天井高く明かり



ヘロルド書店創業者の記念碑

窓の少ない大きな部屋の周辺に幾層にもわたり積層されている書棚・書棚・書棚——そして室内の各処にさまざまな彫像(何かのアレグリーであろう)が置かれていた。そして、今日の図書館風の閲覧室なるものは別に設けられていないようである。たしかにこれは現代式の機能的な図書館ではない。しかし、そこにはハプスブルク王朝の時代以来永年にわたって培われ、うけつがれてきた濃厚な文化の集積があるとあらためて認識させられた次第である。

ウィーン市内には本屋が多い。私が歩いただけでも、ケレントナ1通りに二軒、そのうちの二軒はまるで図書館のような感じの壮麗な雰囲気の本屋であった。国立歌劇場の近くに二軒、そして王宮西口のブルク門の傍に一軒、この店は観光客相手の本屋とみえ、ほとんどオーストリアとウィーンに関する書物のみを扱っていた。最後に、カール・ルエーガー・リンク

### 新着書紹介

○入谷敏男『日本人の集団心理』(新潮社)。過去の戦争で政府指導者の巧みな世論操作に付和

雷同的に迎合し、権力に盲従した日本国民の集団心理の実態が刻明にえがかれている。  
○岸田秀『黒船幻想』(トレヴィル)。精神分析学から見た日米関係の歴史的な歩み。  
○ドミニク・チュルク『曖昧の構造』(毎日新聞社)。フランスの日本企業問題専門家による日本社会の考察。  
○岸田秀『嫉妬の時代』(飛鳥新社)。心理学者による社会問題考察。三浦事件、戸塚ヨットスクールの問題、豊田商事事件、「積木くずし」、いじめ問題などを素材としている。  
○ギンター・ヴァラフ『最底辺』(岩波書店)。西ドイツの一ジャーナリストがトルコ人に変身して最低の生活を体験し民族差別の実態を味った記録。  
○地引嘉博『東欧の社会』(サイマル出版会)。著者は東大西洋史料出身の駐ルーマニア公使。「ペレストロイカ(改革)の波は東欧をどう変えたか」のサブタイトルにあるように、現在の東欧の実態をよく把握している。  
○木村勝美『覇道をゆく——川上哲治の戦中戦後』(光人社)。潮ノンフィクション賞受賞作。  
○白石一郎『海狼伝』(文芸春秋社)直木賞受賞作。  
○村田喜代子『鍋の中』(文芸春秋社)。芥川賞受賞作。  
白石、村田の両氏は九州出身。

## 高専祭

第十六回高専祭は、十月三十一日(土)、十一月一日(日)の両日、本校にて盛大に行なわれた。当日の天候は、厚い雲がたれこめ、今にも泣きだしそうな天気であったが、心配された雨は、最後まで落ちてこず、支障なく進行することができた。



機械工学科「ホバークラフト」

今回は、「Childhood's End」(少年期の終わりに)と云う新しい時代を切りひらく、若者の情熱に合う様なテーマで取りこんできた。また、英語題になったのは若者達

ラフトがあり、これは今回、改良に改良を加え、推進させた。そして、今回のメインの飛行船は、五十メートル上空を雄々と踊りまわり、中庭の観客の目をひいていた。また、バザーの所で、キーホルダーなどを配り、参観者とのコミュニケーションを深めていた。機械工学科はその他の学科と違い野外でしたために、参観者との交流が重視された。

電気工学科は、日頃の堅苦しい電気を、一般の参観者に分かりやすくする為に、電気を遊べる電気として表現し、展示した。遊べる電気作品として、電気自動車、リニアモーターカーは電気の分からない子供達でも、楽しみながら電気のことを理解できるように作られたものであった。そんな楽しい雰囲気の中を歩いていると、ふと美しいメロディが聞こえてくる様な企画、電気とは触れ合うことのない女性達の為の企画など、電気を、一般の参観者の方々に、分かりやすく、親しみやすい、楽しめる電気とした。



E S S 英語劇「ノアの箱舟」

だが、「新鮮さ」という点では、各学科とも多少もの足りなかつた気がした。次期高専祭にあたっては、このことを念頭におき、常に前進を目指して、新しい試みに取りこんで欲しい。

### バイク実技講習会

雨天のため延期されていたバイク実技講習会を、10月12日の前期末試験最終日の午後に行うことができた。前夜の雨の影響が心配されたが、まずまずのグラウンド状態となり、一四五名のバイク通学生が参加した。

時代を切りひらく、若者の情熱に合う様なテーマで取りこんできた。また、英語題になったのは若者達

工業化学科では、生活の中で使っている身近な物を、化学的に解明してみた。トータル・ケミカルでは、レモンによる発電や、浮いたままのシャボン玉、そして瞬時に固まる液体など、日常では考えられない現象が参観者の方々の足を止めていた。また、女性の多い化学科では、女子バートを設けて



茶道同好会「野点」

今回は、クラス展示がなかったため、学科展示が中心になっていたように思われた。内容としては、以前からあるものは改良され、前回以上の仕上りとなっていたよう

最後にになりましたが、今回の高専祭の成功の裏には、教職員の先生方のご協力、風紀局をはじめとする警備、そして実行委員の半年以前からの綿密な計画があったことを忘れてはならないと思います。(学生会長)

文化講演(62.10.31)

ヒマラヤから九州まで

—自然と文化—

三重大学人文学部 助教授 目崎 茂和



おはようございます。ただ今ご紹介いただきました三重大学の目崎でございます。これまで専門の自然地理学をとおして世界の各地を見てまいりました。

今回はヒマラヤから九州に至るまで、私どもがふだん見られないさまざまな自然というものをスライドでご覧にいたします。そして皆さんが外国に出て仕事をするとき、日本に無いものや特別に大きな自然にチャレンジするような気持ちをもって頂きたいというわけであります。

自然を見る目、つまりどういう具合に自然をとらえたいのかという目を養い、同時にその大自らのなかで生きていく人たちがその生活についてぜひ関心をもって頂きたい。その関心を持つなかから、いま問題となっている国際化という意味がとらえられるのではないかと思います。

一ツをさぐるというときには、我が国の中だけでなく、ぜひよその国にも目を向けてもらいたいというわけであります。

私どもがヒマラヤに行ったのはそういう研究というよりもどちらかというところ、何時ごろからヒマラヤがどうやって出来たのか、その自然の成り立ちを調べるためです。ヒマラヤでは八千級の高山がネパールを中心として13から14峰がある。こういう山がどうしてできたのか、これはいろんな意味で謎があるのですが、結論的なことをお話するところでも一億二億年前にはインドは南のほうにあってアフリカとか南極大陸にくっついていてということが古磁気の研究から分かってきました。それが岩盤に乗ってだんだん北上していつか、大体今から五千万年前くらいにユーラシア大陸にぶつかった。このぶつかったときにテチス海というインドとユーラシアの間にあつた海に堆積した地層、これは本州を経て北海道までつながっているのですが、その中の同じ化石がエベレストなどのヒマラヤの頂上部にもあるわけですね。おそろくこうしてぶつかったときに、間にあつた海の地層がだんだんまくりあげられて褶曲が起り、ヒマラヤの高い山々をつくっていった(写真1)。ここからアンモナイトなど海の化石が出てきます。現在でもインドは北のほう



写真1. エベレスト山(下部に褶曲が見える)

に押し寄せて、そのために中国の内陸部で大きな地震が起きたりしていることが分かってきました。またその外にもそういう国に行きますと単に大自然の素晴らしさというだけではありません。ネパールでは車の通れる道がほとんどない。そういうところで調査をするということはまさに江戸時代以前に相当するような感じでしか調査のしようがありません。

こういう調査が二カ月くらい続くと五百kmくらい歩きます。毎日高い山に登ったり下ったりしますから、一日10〜20kmくらいしか歩けません。こうなると電気もない歩かれない大変なところなんだけれども、考えてみると我々の先祖は明治より少し前まではみなそういう生活をしていたんですね。そういう生活と旅行がネパールに行くと可能であります。もし怪我をしたら、かついででもらつて三日間下からなければならぬとか大

変な苦労があるわけですが、でも大自然の素晴らしさとあわせてこのような困難に打ち勝って生きていく人たちの出会いというのも、我々にさまざまなことを教えてくれるわけであります。

我々は歩くのが嫌になつたらすぐ車に乗ってしまう。しかしそういうことがなんにも出来ないような状況に自分をおくことが大切です。海外にはまだまだそのような場所が沢山ある。皆さんは、何となくそれは遅れているというようになことで片づけられるかも知れないが、そういうことではなくて彼らは自然と共生しているのです。そういう視点から見ると現代の日本人は昔やっていたことを忘れて退化してしまつた。そういう意味では国際化ということを考える場合にも、さまざまな国と付き合いということ、先進国ばかりではなくて、アジア諸国をみることも必要なのです。

自然を見る目、つまりどういう具合に自然をとらえたいのかという目を養い、同時にその大自らのなかで生きていく人たちがその生活についてぜひ関心をもって頂きたい。その関心を持つなかから、いま問題となっている国際化という意味がとらえられるのではないかと思います。

ほとんどどこも死んでいます。この三〜四年前に沖繩じゅうのサンゴは食べ尽くされてしまいました。サンゴというのは海の中の森林であります。畑であります。それがみな死んでしまったために魚類が大変減りました。そういうことがあちこちで起つていっているわけであります。

そういう意味で我々を取り巻く環境にも目を向けて、ただ大自然に対するだけでなく、我々人類の未来に大きな影響を与える環境問題についても考えてください。

ヒマラヤの自然の素晴らしさというのはいンド大平原が海拔百m、それから八千mの壁になるまでに百km位の幅しかない。つまり気候的に見ても百kmの幅のなかに亜熱帯から極地までがコンパクトになつていっている。そういうところの魅力に自然科学者がとりつかれるわけ



写真2. サンゴを食べるオニヒトデ(中央下部)

サンゴを食べるオニヒトデがこの15年の間に急速に異常発生しました(写真2)。この異常発生というものは日本だけではなくてグアムとかオーストラリアのグレートバリアリーフでも起つていっているのですが、オニヒトデはサンゴを覆つて胃液を出してサンゴを食べちゃいます。この15年間に日本全体のサンゴの95%以上が死んでしまつた。今、沖繩に行つて生きているサンゴを見ることはほとんどありません。

います。天気の変化を起こす対流圏の厚さというのは一万mそこそこなのですが、ヒマラヤというのは八千mの壁となつて立ち上りだけというわけですね。ヒマラヤの位置というのは九州の少し南にあるわけですが、そのために日本に世界でも珍しい梅雨があるのです。雨季が始まるのは、インド洋からのモンスーンが始まる時期に対応するわけですが、ヒマラヤがあるためにモンスーンの一部は立ち止まり、一部は日本の方に入り込んでくる。これが梅雨のきっかけになるのです。

また日本は中緯度地域なんです。中緯度地域の一部である日本海側でこんな雪が降るというのも世界で珍しい。これもシベリアの寒気団がヒマラヤのあるおかげで南に下がって行けなくて、日本のほうに流れ来るためです。そのようなわけでヒマラヤは地球の大気循環に大きな影響をあたえています。

ではヒマラヤが何時ごろできたのか、ということを考えてみるとせいぜい五千万年前くらいだろう。つまり地質学的には比較的新しい時代に一気に山が高くなつたと考えた方が良いわけです。ヒマラヤというのは大きく見ると連続していると考えて良いのですが、実は大変珍しいことに山から川が流れ出ている。八千m級のエベレストの

山塊と八千mのカンチエンジュンガの間にある川という川が流れている。アンナプルナとダウラギリの山塊の間にもカリガンダキ川が流れている。アンデスとかアルプスではこういうことはなく、川の源は山なんです。アルン川にしてもエベレストの後側から川が流れている。これは大変珍しいことなんです。実は山が高くなる前におそろく川があつたという証拠であります。山が高くなるのとあわせて川が削つて流れ出たと考えざるを得ないわけであります。



写真3. ネパールの塔カルスト



写真4. 平尾台のカルスト地形

次のページへ

# 教室通信

## 機械工学科

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

●木下 実君 (62) ○62.11.3 結婚(新婦 久美さん)  
※転職・転居等をお知らせします。

●田口勝身君 (43) 7月より東京営業所へ転勤(三井ハイテック) 〒142 東京都品川区小山2-16-28 コーポ藤井

●内田信行君 (52) □転居〒213 神奈川県川崎市宮前区けき平一番宮前平グリーンハイイツ1号棟203号 Ⅸ044-853-3764

●杉本 隆君 (55) 〒803 北九州市小倉南区大字徳力544の10池田ビル202号 Ⅸ093-962-6537

●佐藤公則君 (62) □勤務先〒849-01佐賀県三養基郡中原町大字資原609 NOK九州事業部佐賀事業場製造一部生産技術課 Ⅸ0942-94-3111□住所〒830 久留米市西町176-4 Ⅸ0942-21-7651

●猿渡清成君 (62) □勤務先〒570 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電機産業株式会社無線研究所機構第2開発室Ⅸ06-908-1291 □住所〒572 大阪府寝屋川市御幸東町30-23松葉寮 Ⅸ0720-26-2694

## 電気工学科

●大石豊二郎先生は病氣療養中でありましたが心不全のため9月26日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

●雪野昭寛君 (45) ○62.4.24日結婚(新婦佳子さん) ○〒562 箕面市桜ヶ丘3丁目8番D-546号 Ⅸ0727-21-8117

●戸内正弘君 (58) ○62.10.18日結婚(新婦弥生さん) ○〒807 北九州市八幡西区浅川台2丁目1番8-106

●猪口和幸君 (58) ○62.10.25日結婚(新婦清美さん) ○〒836 大牟田市小川開104棟34号

●中島隆浩君 (58) ○62.10.25日結婚(新婦さわ子さん) ○〒836 大牟田市小川開106棟34号

※転職・転居等をお知らせします。

●江崎浩秋君 (56) ○62.8.1西鉄電設工業KK ○〒837 大牟田市歴木 Ⅸ53-2587

●蓮尾隆二君 (56) 三井東圧化学KK彦島工業所工務課 ○〒750 山口県下関市彦島迫町6丁目2-45三井東圧化学白彦寮 Ⅸ0832-67-3922

※学校来訪者(敬称略)

松田昭一(43)、坂井和典(47)、西村亮一、鈴木公司(以上49)、川崎耕二(50)、村橋武己(51)、副島義昭、和田卓也、村田真也、高石敬一(以上59)、渡辺晴樹、堤 豊(以上55)、木戸健二、水原誠二(以上56)、武末浩紀(57)、中津海無一、吉田龍次、上田清年(以上58)、浦塚 精、北原晋一、小宮寿之、角 哲也、飛松誠二、角田一誠、深町 公(以上60)、荒巻高広、小川勝己、加藤博史、坂井陽一、斎藤隆幸、田上光喜、中村剛直、中村弘行、弘島正二郎(以上61)、入来真範、市村 清、河野 清、木原雅孔、梅崎 誠、柿添健介、清谷和久、古賀雅典、末吉孝博、中満栄二郎、原田英昭、松田史郎、村田克也(以上62)

## 工業化学科

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

●浦田斉行君 (55) ○62.9.15 結婚(新婦真由美さん) ○〒441-34瀬美郡田原町谷熊鷲ヶ谷1-209

●鐘ヶ江弘樹・由美子君 □転居〒770 徳島市沖浜3丁目63-1第3みずほビル302号

●松本香鶴君 (62) □転居 〒804 北九州市戸畑区天神町1丁目4-21 吉村荘

●田中 剛君 (62) □転勤 〒567 大阪府茨木市大池1-62 旭化成摂津寮

●桜井陽一君 (47) □転居 〒175 東京都板橋区成増1丁目6番106号(東建ニューハイイツ成増) Ⅸ03-930-9912

●橋口由美君 (57) □転勤 ニコレージャパン(KK) 大阪府豊中市寺内2丁目4番1号緑地駅ビル6F ○〒617 長岡京市長岡3-15-8

●河野美智子君 (55) □転居 〒857 佐世保市光月町10光月町住宅3-21

●村上豊昭君 (62) □転居 〒333 埼玉県川口市芝中田2-47-8 ルミエールICI102号

●小林竜二君 (61) □転居 〒236 横浜市金沢区乙輪町10の3 環境センター野島寮 Ⅸ045-785-8973

●今村健一君 (52) □転勤 湧永製薬(KK) 仙台支店 〒240 横浜市保戸ヶ谷区特場164-38グリーンヒルズ横浜A-212 Ⅸ045-742-1552

●島本信雄君 (50) □転居 苫小牧市新明町4丁目18-4-407

●井形一紀君 (62) □就職 ダイキン工業株式会社製作所特機事業部第2工場課2-1(〒566 大阪府摂津市西一津屋1番1号) ダイキン工業株式会社製作所 Ⅸ06-349-5313 ○〒566 大阪府摂津市一津屋2丁目21-21 Ⅸ06-349-5585

●原田正太郎君 (61) □転勤 大日本マイクロソフトシステム機設計部第一課(〒162 東京都新宿区市ヶ谷左内町21-13 Ⅸ03-266-4111) ○〒115 東京都北区赤羽南2-20-1大日本印刷王子若竹寮 Ⅸ03-903-8398

●下原一也君 (62) □就職 トーヨーサッシ(株)野田工場住宅加工課(〒270-02 千葉県野田市中里3000番) ○〒270-02 千葉県野田市中里3167番 トーヨーサッシ中里寮 Ⅸ0471-27-2925

## 建築学科

●上原修一教官が10月4日に結婚されました。新婦ひとみさん。おめでとうございます。

●岩本美智代さんが9月23日に結婚されました。新郎 壬生(みぶ) 太氏。おめでとうございます。

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

●梶原孝広君 (56) ○62.6.21(新婦美江子さん) 太宰府市大字太宰府1277-1-302 Ⅸ092-928-0812

●吉永誠治君 (60) ○61.8.22結婚

●池内泰夫君 (57) ○62.7.9結婚 西日本ハウジング入社

●松尾竹次君 (54) ○62.9.13(新婦悦子さん) 福岡市西区山門団地36番509 Ⅸ092-882-7251

●熊川千尋君 (54) ○62.9.26(新婦昭子さん) 筑紫郡那珂川町大字恵子105-2 コーポ幸B-1 Ⅸ092-952-4807

●出口勝志君 (55) ○62.5.20(新婦みさ子さん) 〒862 熊本市健康町鉄砲塚2305-242 鉄砲塚団地2-504 Ⅸ096-384-1032 西日本システム建設機入社

※同窓生の転勤・転職・転居等をお知らせします。

●奥園一也君 (53) □転職 大林組入社

●岡 啓輔君 (61) □転職 殖産住宅退社

●木村 緑君 (53) □転職 第7管区海上保安本部経理課管轄係入社 Ⅸ093-321-2931

●増田良治・徳恵君 (54) ○〒800-02 北九州市小倉南区朽網東6-6-23

●西田正子君 (62) □転職 高業設計入社

●坂本俊久君 (58) □転職 今・井アソシエイツ入社 〒812 福岡市博多区須崎8-22-206 Ⅸ092-271-0724

●内野久夫君 (49) ●埼玉県富士見市西みずほ台1-20-4 サンライツマンションさつき1203号

●中島敏宏君 (52) ●〒359 埼玉県所沢市和ヶ原1-176-6 狭山ヶ丘ハイム106 Ⅸ0429-49-6889

●今岡昭智君 (62) ●福岡県京都郡苅田町松原町1番地 誠心寮 Ⅸ093-434-0224

●学校来訪者(敬称略) 酒見宏祐(57)、奥園一也(53)、上妻 修(58)、高口幸雄(62)、原口淳二(58)、甲斐哲也(58)、古野清二(53)、渡辺晴美(60)、古賀敏宏(62)、板井岳宏(51)、合原孝善(62)、松下伊納(62)、谷本卓也(62)、武藤和弘(61)、黒田繁美(60)、木村邦子(61)、笠原信悟(60)、福島尚史(61)、倉富昭弘(61)、今岡昭智(62)、大坪和也(旧姓樋口)(52)、村嶋敏恵(59)

中国・フィリッピン・沖縄みたい  
に熱帯地方ではたくさん落けるの  
であんな山を作る。しかし九州で  
はあまり落けないものだから、せ  
いぜい小さなカレンという岩が出  
来るくらいの全体的にはのつべり  
した大地が出来るのが温帯型の特  
徴であります。おなじ石灰岩のカ  
ルスト地形といっても熱帯か温帯  
かで違ってくるわけで、沖縄まで  
は熱帯ということが出来ます。

このような自然と地形の違い、  
それが実は沖縄まであるわけで沖  
縄と本土では気候的な違いが地形  
にまで反映しているんだというこ  
とがわかるんだとおもいます。

さて石灰岩を作ったものを辿っ  
ていくとこれはみな昔のサンゴ礁  
です。サンゴ礁というのは多くの  
魚を養う海の中のオアシスのな役  
目をしています。サンゴというの  
はゴツゴツした形のもので、夜が  
夜になるとインキンチャクの様  
に触手が伸びてきてプランクトン  
などを食べている動物なわけであ  
ります。この一匹一匹の動物がよ  
り集まって海中のカルシウムと  
二酸化炭素を捕らえて炭酸カルシ  
ウムを骨として残しているわけ  
あります。

これが堆積したものがサンゴ礁  
で、棚状に海岸沿いに幅が大体1  
kmくらいに広がっている。干潮時  
になると干上がって出できます。

これを沖縄ではヒシとかピーとか  
いいます。なかに深さが1〜2m

の浅いイノーという池みたいなも  
のが出来ます(写真5)。ここで  
魚とか海藻とか貝とかがたくさん  
獲れます。昔から干潮になるとこ  
こに出掛けて行って、ウニとかタ  
コとかを獲る場所だった訳です。

トカラ列島は北緯30度で、ここ  
になるとわずかにサンゴが着いて  
います。だいたいここがサンゴ礁  
の北限であります。サンゴはさら  
に黒潮の流れている海底の中に生  
きてはいますが、温度が低いため  
にサンゴ礁を形成するには至って  
いません。たとえば九州さらに東  
京湾にも生きてはいますがサンゴ  
礁は出来ていない。

トカラ列島に來ると火山が見ら  
れます。九州に入ると桜島が見え  
てきます。これで九州までやって  
きました。

あまりまとまりの無い話で、大  
急ぎでヒマラヤから九州までさま  
ざまな自然とその貴さをご覧にい



写真5. 沖縄のサンゴ礁(中央部がイノー)

# 同窓会だより

昭和63年3月是有明高専同窓会が発足してから満20年になる。いわゆる成人式を迎える訳である。

この嬉しい年を祝うため、1月2日、大牟田ガーデンホテル飛鳥の間で、卒業生会員、及び関係者多数の参加を得て、久々に盛大な祝賀会を開くため準備中である。

案内状は「高専だより」の発送を待ってもらって、11月中に卒業生会員に届くよう手配済みである。(この同窓会通信が卒業生会員に届く時は、祝賀会の後になる)

そこで、本稿では、20年目の節目に当り、同窓会が現在抱えている問題について説明し、今後の発展のための参考に供したいと思う。

○同窓会の収支について。既に周知の通り、本校創立20周年を機に収支の均衡をとるためと、会費負担のむら無くするため、会費は入学時に終身会費を納入してもらうことに会則は改正されている。この結果、毎年一定の収入が確保され、その範囲内で平年度の事業・即ち「高専だより」=年三回発行=を二回に分けて卒業生会員に発送すること、が続けられて来た。しかし、卒業生の数は一定数ずつ確実に増加すること、名簿原簿の修正、郵便発送の業務を、凸版印刷に委託し電算機処理を依頼していること、などから、予想以上に経費がかさむという事態となった。このため62年度は繰越し金の一部を食うことが現実となった。

この残高の目減りを如何にして防ぐかという問題が、

62年5月の理事会で出され、その解決策は校内教官理事に任せられた。これを受けて卒業生教職員を中心に教官理事が集って検討中だが、その中間報告を見ると、大方次の様になる。1. 「高専だより」の発送を年1回とする。2. 同窓会通信、教室通信の頁のみを送る。3. 同窓会通信を「高専だより」から分離する、など。しかし、この様な節約案を実行に移すには、その前に卒業生会員が「高専だより」をどの様に見ているかという実態の把握が必要である、との意見もあり、正月のクラス会等において、卒業生会員の意見を聞きたいと思っている。会の財政状態を改善する方法の一つには、会費の値上げという手段もあるが、それに頼るよりも卒業生会員に、機会を見て、適宜寄附をお願いして、繰越し金の目減りを防ぐべきである、との意見もある。いづれにしても、この問題については尚検討を重ね、63年5月の理事会に報告することになる。

○会長の交代について、この件については「高専だより」を通して既に公告しているが、正式の決定は来年5月の理事会に於いてなされる予定。

○お願いがひとつ。本校は優秀な意欲のある中学受験生の発掘に取組んでいる。卒業生諸兄姉が高専教育の成果を示している何よりの好例であるから、親戚、知人の家庭にその様な中学生がいたら、受験をすすめて下さるようお願いする。母校の発展に一役買って下さい。

れたのですが、その裏では環境汚染や破壊が現実にあちこちで起こっているのではありません。そういうものにもぜひ若い皆さん注目をし、ていただきたいと思えます。それはこれで終わります。どうも有難うございました。(文責 須藤・中島)

退官して思うこと

石橋 助吉



秋も深まり、朝夕は肌寒さを感じる季節となりましたが、皆様にはお変わりもなく、益々御精励のこととお喜び申し上げます。私は、この春長い勤務を終え無事退官致しました。これも偏に、諸先輩はじめ教職員の皆様、卒業生、学生、御父兄並びに関係諸企業の方々、その他多くの方々の並々な御指導と御協力によるものと深く感謝し、ここに厚くお礼申し上げます。

想えば初めて有明高専をたづねたのは昭和三十八年四月、入学式の翌々日でした。あれから非常勤講師を四年、四十二年に教官となり、それ以来ホームルーム、卒業研究等での学生との交流を累ねて過した二十二年間は本当に悲喜交々でありました。今後これらの体験から得たものを、地域の少年達の為に幾分でも役立てることができたらと思っております。現在は、有明高専の非常勤講師として、週二日勤務しております。

5Cにはパソコンによる3DCG主体の授業を計画しています。それは3次元の図形処理が3次元CADの中核をなすものであることから、授業の内容もソフトの作成で、昨年度、より多くの時間を充てる計画を立てています。五十七年、卒研生を相手にパソコンを入学へ導入する研究を始めました。当時パソコンでは困難とされていたワイヤフレーム法による陰線処理法の前半を、五十九年度卒研生山本正弘君(現長岡技術科大)が考案し、それから一年後に完成しました。これはどのように複雑な立体の複合したものについてもXYプロッターで描くことができ、処理速度も実用的なソフトです。講義をこまに進められるかどうかわかりませんが努力することにしています。又、これからも、CGの新しい分野に取り組みたいと思っております。

最後に学生諸君に望みたいことは、ときどき自分自身を見詰め直し、変に乱れてゆく社会の風潮に流されることなく、謙虚に然も大胆に、良く見、良く聞き自己の確立に努めることです。口にするのは易しいが仲々難しいものです。私の母校の校歌に  
心の故里我等が母校 集り散じて人は変れど 思いは同じき理想の光 いざ声揃えて声もどとどろに我等が母校の名をば讃えん  
という歌詩の部分があります。

有明高専の皆様へ

城戸 英彦



卒業生、学生共に身を置いた有明高専を誇りとし、諸君らの力で永久に声を揃えて高らかに讃えてゆけるように頑張ってください。末尾になりましたが、皆様の御自愛を心からお祈りいたします。

中九州の大牟田の地は外界の景気を抜きにしてみれば、ほんとに人情こまやかな住むには好適な場所でありましょう。私は六年間、有明の地に教師として奉職し、教職員の皆様方から心からの御支援を得て、つがなく任務を遂行することができたことを改めて感謝いたします。私の人生のほとんどの生活は東京地区でありましたが、生れは福岡県の東部であり、又旧制高校は熊本で、その寮時代のルームメイトが旧制三池中学出身で大牟田の話はよく聞かされていたので、私自身赴任するにあたり何の抵抗もありませんでした。また先生方の中にも熊本出身の方が多く、仕事の上で色々議論もいたしましたが、今は先生方の善意あふれる御親切な心に対して、今は振り返ってみてなつかしさと、感謝の言葉以外は何もありません。教師としての仕事、すなわち教育と研究のこの両者をうまく生かして、という理想だけは持つていまして、どうやら六年間やってきましたがまたたく間にすぎました。全く多忙でした。又学生諸君とできるだけ対話を交わしてゆく努力をしてきたつもりですが、この点お認めいただければ幸いです。存じます。この前の六月に結婚した工業化学の櫻井君が、その新婚旅行先より御手紙とその土地の産物であるワインを送ってよこされ、彼の誠意あふれる手紙に全く感激しました。学生さんは皆真剣に自分の将来のことについて皆教師との心からの対話を希望しているのではないのでしょうか。教育とは学生の内にあるものを取り出すという昔から言われたこの意味を、私自身今また考え直して、今の職場でも生かしているつもりでございます。

現在は大いに元気で張り切って頑張っております。東京に出てこられたら是非御立寄り下さい。皆様方の御健康と御発展を心から御祈りいたします。



逝去される

大石豊二郎先生

かねてから病療養中であった本校名誉教授大石豊二郎先生は、九月二十六日入院先の福岡県朝倉郡三輪町の朝倉記念病院で心不全のため、八十二歳の生涯を終えられた。

明治三十八年の福岡県生れ。明治の風を残した気骨のある先生であった。官立明治専門学校電気工学科を卒業の後、安川電機を経て、八女工業学校、新居浜工業学校、三井工業学校(現三池工業高校)、筑後高校(現八女工業高校)教諭、宇部工業短大教授、宇部高専教授から、昭和四十二年本校電気工学科教授として着任された。ちよと、カリキュラム試案から標準教育課程への移行や建築学科の増設、大学の学園紛争の波及と多忙な時期に教務主事となられ、学校運営に尽力された。とくに、昭和四十五年には、菅田敏雄二代目校長が病気による現職死亡という困難な事態に直面したが、校長事務代理、取扱としてよくその代行を務められた。昭和四十八年の退官と同時に本校の名誉教授となり、その後も非常勤講師として六年ほど来校された。「交流回路」など多数の著書、論文があり、死亡後、従四位勲三等瑞宝章がおくられた。永年、教育活動ひとすじに精魂を傾けてこられた先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

銀杏棟 紅葉棟 字寮だより 青葉棟 若葉棟

規律に思う

寮務主事補 池田 茂  
規律を窮屈に感じ、こんなものは人を縛るためだけに清浄なものだと思ひこんでいる人はいないだろうか。もし、その人に、此れと言った目標がなければ、正しく感じられよう。が、その人が何か目標を心に抱いて色んな工夫を重ねているとしたら、規律ある生活、その生活の中のリズムは掛け替えない貴重な基盤であり、時間の活用は成功の重要な鍵となる。皆が共同で生活を送りながら、且つ、一人一人が自分の目標を達成するには、自己の規律とともに他の人々の規律は不可欠だと言えよう。

諸君は、規律に追い駆けられ、それから逃げようという姿勢にあるか、それとも、リズムが確立し行動のパターンにムラのない規則正しい生活を味方につけ、その中で自己の目標へ着実に前進する毎日だろうか。岐路は、目標が胸の中にしっかりと抱かれていようかどうかにある。さてこの次ぎの一時間に何をするか、今日一日には何を今学期には、そうしてこの学年に

は、さらには、卒業のあとには、と、自分をしっかりと、また、確実に引っぱってくれる目標というものが大切である。

寮での友愛

寮務主事補 松門 武  
寮は四月九日にこの寮に入ってきた。最初は同じ寮生もなかった。同じ学校の人が一人もいなかった。けれど日ごとにつれて、部活などいろいろな友達や先輩を知り楽しくなってきた。いろいろな楽しいことがあった。一番楽しかったと思うのは、きつかったけれど寮生散歩だった。夕方から夜中まで街中を歩いたり海岸沿いをおおせいで歩いたのは初めてだった。四山神社での弁当はまた格別な味だったし、あの市内の雄大な夜景はなんともいえないくらい美しかった。一つのよい思い出になったと思う。

寮とはこんなきびしい所だとは思わなかった。中学の時などきつような生活をしていたので、いまでもくしい。朝起きてすぐのラジオ体操がいちばんつらい。でもやっぱり寮に来てよかったと思う。広い範囲の友達がいる

協調と奉仕

寮長 江藤 公俊

寮生活の場である寮生生活において最も重要なこと、協調と奉仕であると思ひます。二百三十名余りもいる寮生すべてに協調心がなければ集団生活を行なうことは困難である。そこで寮では球技大会などスポーツを通じて寮生の横のつながりばかりでなく縦のつながりを深めることにより協調心を高めるよう努力しています。しかしまだ理想的な寮生活を実現するにいたらない状態です。

次に現在寮明寮では自室以外の公共の場のそうじを行なっておりますが、残念ながら十分な状況ではありません。そこで週に一度行なわれる週番交代で公共の場の掃除や土足禁止などよびかけています。しかし本来なら先生がたや寮生会役員がよびかけることではなく、寮生一人一人が心がけるべき事であると思ひます。今後も私達は寮生すべてに自分達さえよければいいという自分本位の考えを捨てさせ奉仕の心を高めるよう努力していきたいと思ひます。

健康とは

寮母 四ヶ所悦子

「行って来ます。」「行ってらっしゃい……」  
毎朝八時過ぎから、学寮若葉棟の玄関に立つて、一年生と言葉を交わし、登校を見送ることから寮母としての一日が始まります。

本年四月一日に寮母と云う職名を頂き、この様な勤務を始めてから、はや七ヶ月が過ぎようとしています。その間一年生の成長、変化があり感じられます。朝の挨拶なんかは、指導しなくても当然できるものと思ひましたが、現実にはなかなか難しいようでした。が、このところ挨拶の声もだんだん大きくなり、はきはきと云える一年生が多くなって来ました。これもやはり中村先生始め、主事補の先生方の御指導の効果が現われたと云うべきでしょう。高専の学寮は、教育寮として位置付けられており、それだけに、寮務主事、主事補の先生方も、早朝から夜遅くまで、寮生の指導に心血を注いでおられます。時には過保護に思われるようなこともありますが、十六才から二十才まで年令差のある人達が集団で生活していますので、指導の方法も変化を持たせる必要があり大変なことだと思ひます。私も微力ではありますが寮生の健全な成長を図

り、ひいてはよりよい寮風を作ると云う目的に向かって職責を果したいと念じております。

さて、寮訓の中には健康、清潔が掲げられています。若い皆さんは日頃自分の健康については殆ど考えることもないでしょうが、「健全なる精神は健全なる身体に宿る。」と云うごとく、健康は大切なものです。では、「健康とは何か。」「健康ですか。」と尋ねられ、あなたは何と答えますか。WHO(世界保健機構)の健康についての定義を思い出す人もいます。健康とは身体的、精神的、社会的に安全に良好な状態にあることであって、単に病気でないとか、虚弱でないとか云うことではない。「つまり本当の健康とは、生活が身体的にも精神的にも充実している状態のことです。そしてこの維持には、心身の充分な発育、健康で安全な生活環境、リズムある調和のとれた生活等が必要になってきます。こうなると中々自分は健康だと胸を張って云える人は、いないでしょう。私達は集団の中で、様々な人間関係をしながら生活しています。各個人の健康管理及び清潔、整理整頓等に対する無関心さが周囲に及ぼす影響を忘れてはいけません。寮生活をしていますと、今一度自分の健康管理について考えてみてほしいのではないのでしょうか。



# 高専体育大会

## 九州地区高専体育大会

第24回(昭和62年度)九州地区国立工業高等専門学校体育大会は7月17日(金)～19日(日)、および24日(金)の4日間、主管校佐世保、担当校北九州・久留米の三高専により、それぞれの地区で行われた。

わが有明高専勢はよく健闘し上位に多数が入る成果を納めた。全国大会への出場権を得たのはつぎの4君である。陸上のやり投げ1位の5M松尾淳、円盤投げ2位の中島良介、100m2位の3C野畑光晴、および柔道の軽量級1位の5A林正道である。

また水泳では、4M大村茂則が100mと200mの自由型で二つの大会新記録で1位となり、400mリレーと400mメドレーも優勝した。

その他紙面の都合で、いちは触れられないが、いくつかの団体や個人が上位に入賞している。さて大会期間中の三日間は豪雨と強風の悪天候に悩まされた。筆者は佐世保に応援に行ったが、陸上など田植前の田んぼの中で競技を行なったといっても過言ではなく、加えて強風にあおられてやりが大きい右にそれて補助役員の群の中にとびこむ程であった。他地区でも状況は同様で、福岡であつた硬式野球など初日だけはなんとかやれたが、あとは到底試合ができず、一週間おいた24日に再開するという状況であった。

選手諸君にはまことに気の毒でも上記のような戦績をあげたことは、昨秋以来の努力が実を結んだものとして高く讃えたい。なお各会場に激励に駆けつけたり資金を送って下さったりした先輩諸氏、ならびに選手輸送その他ご尽力いただいた関係各位に心よりお礼を申しあげる。

以下に成績を示す。

●陸上競技・佐世保市総合グラウンド陸上競技場

順位予選リーグ2位、優勝都城

予選リーグ

有明9中1中久留米

有明6中10中都城

個人戦 5位5A桜井孝弘

女子は入賞なし

●第9回全国高等専門学校通信号大会

期日 7月1日～8月15日

(各校に一任)

主管校 北九州高専

○団体

有明60射13中 入賞ならず

北九州60射44中(優勝)

○個人 入賞ならず

●第14回九州地区工業高等専門学校ハンドボール大会

期日 7月19日(日)

主管校 八代高専

会場 八代市総合体育館

順位準優勝、優勝八代

2回戦 有明22-11都城

決勝戦 有明7-24八代

●第3回九州地区国立工業高等専門学校硬式庭球大会

期日 7月18日(土)・19日(日)

主管校 久留米総合スポーツセンター県立テニスコート

順位予選リーグ2位、優勝佐世保

予選リーグ

有明1-2鹿児島

有明3-0久留米

○個人戦 ダブルスではベスト4進出ならず。シングルスでは

●軟式庭球・佐世保市総合グラウンド庭球場および佐世保市体育文化館(雨天で移動)

順位予選3位、優勝佐世保

予選リーグ

有明1-2北九州

有明0-3都城

○個人戦 ベスト8進出ならず

●剣道・佐世保市振興会体育館

順位準優勝、優勝鹿児島

予選リーグ

有明3-2佐世保

有明2-1北九州

○決勝リーグ

有明4-1熊本電波

有明2-3鹿児島

○個人戦 3位 5A早川徳昭

ベスト8 4C山添茂樹

●水泳・佐世保市総合グラウンドプール

順位準優勝、優勝佐世保。

順位予選リーグ3位、優勝鹿児島

予選リーグ

有明67-84佐世保

有明68-76久留米

●卓球・北九州高専第一体育館

順位3位、優勝北九州

予選リーグ

有明3-0熊本電波

有明3-0都城

○決勝リーグ

有明1-3北九州

有明2-3八代

○個人戦 S・Wともベスト8進出ならず

400m自由型 2位 1M和田善郎

6位 5M吉田孝文

5分27秒02

100m自由型 1位 4M大村茂則

1分00秒60(大会新)

5分37秒89

100m背泳 2位 5A玉井孝幸

1分19秒54

100m平泳 3位 4C瓦田貴之

1分22秒25

50mバタフライ2位5E緒方良男

1分22秒25

400mリレー 1位有明

4分24秒65

●硬式野球・九州大学、福岡教育大学および北九州高専の各グラウンド

順位 一回戦有明0-7佐世保

優勝大分

小倉南体育館

順位予選リーグ3位、優勝鹿児島

島

予選リーグ

有明2-1佐世保

有明1-2鹿児島

有明2-1久留米

セツト率で2位

●サッカー・久留米高専と久留米大学医学部の各グラウンド

順位 一回戦有明0-2都城

優勝佐世保

●柔道・久留米高専第二体育館

順位予選リーグ2位、優勝都城

予選リーグ

有明2-15点1-2勝20点熊電

有明3-1勝2勝久留米

○個人戦

軽量級優勝 5A林正道

中量級 上位進出ならず

軽重量級準優勝3A広松秀文

重量級3位 3A竹下慎二

●バレーボール・久留米総合スポーツセンター県立体育館、久留米高専第一体育館

順位準優勝、優勝久留米

予選リーグ

有明2-10都城

有明2-1佐世保

○決勝リーグ

有明1-2鹿児島

有明2-1久留米

## 全国高専体育大会

第22回全国高等専門学校体育大会は8月10日(日)から12日(火)の三日間、東北地区主管(秋田高専が主管校)で行われた。

本校の出場者は九州地区大会の項で紹介したように、陸上部の5M松尾淳・5M中島良介・3C野畑光晴ならびに柔道部5A林正道の4君であった。

## 体育記録会

この日、空は青かった。肌寒さを感じたけれども、影はいよいよ濃さを増してきた。そしてスタートのピストルの音によって、昭和62年度体育記録会の幕は切って落された。この時が来るのをどれだけの人が待ち望んでいた事か。

M君は一人黙々とトラックを走り続け、S君はハイジャンプのパイで背中の皮をむき、T君は唯、砂を眺めているだけだった。陸上競技は、リレー以外は完全な個人競技である故、個人個人の精神の強さが勝負を握ると云われる。

これは、社会でも同じ事が云えるのではないかと思う。

何の拘束もない無責任な学生時代には感じ得なかつた責任感を、社会に出て体感する時、それを乗り越えられるか、やりきれぬかと云うことは、精神力の強さに比例する様に思われてならない。勿論その精神力の裏付けとして自信がなければならぬ。己れを信じる事が出来なければ、何も信じられないのは当然の事である。何をもって自信を成すかは個人の自由であらう。学力に自信をつけるもよし、体力に自信をつけるもよし、何であらうと構わないと思う。

記録会で、華々しく栄冠を勝ち取られた方々は、その自信を胸に

刻まれた事と思う。また惜しくも敗れた方々も、次は負けまいと思ふその心は、自分の身をその場に安穏として置く事を好まず、更に上昇する筈である自分を信じ切っている心、即ち自信ではないでしょうか。何はともあれ、記録会に参加して頂いた皆さんに感謝いたします。

そして、記録会を運営するにあたって協力して頂きました、主事室、体育科の先生方、学生係、教務係の職員の方々、テープをかけて下さった放送のお姉さん達、そして、遅くまで残って準備に当たってくれた陸上部員と、学生会執行部の皆に一言、どうもありがとう。

この日、空は青かった。

○体育記録会成績

○100m 3C野畑 11"35

○200m 5E松永 24"80

○400m 5M六倉 55"20

○千五百m 1C平川 4'39"09

○四百mリレー 5M 4'49"90

○八百mリレー 5M 1'43"20

○男子ハンドボール投げ 5M松尾 39m40cm

○女子ハンドボール投げ 5C井藤 24m82cm

○走り高跳び 4C藤田 1m86cm

○走り幅跳び 5E松永 5m75cm

○学科対抗リレー 機械工学科 優秀クラス 4C

○最優秀クラス 5M

## 春季球技

去る5月21日(木曜日)に球技大会が行われ、終日、順当勝あり番狂わせありの熱戦のうちに無事終了した。

種目は、ソフトボール、バレーボール、テニス、卓球の4種目で日頃のうっぶんを晴らすべく熱戦を繰り広げた。

ソフトボールでは、優勝候補と目されていた5Mが不運にも二回戦で教官チームと対戦し、敗退。そして、我々との体力差のハンデを練習とテクニクでカバーした事務チームが決勝まで登りつめ、ラッキーな試合をしてきた大穴の5Eと対戦することとなった。しかし、試合の方は、全学生の注目を集めながらも、やっぱり5Eはラッキーだったのだと、皆を領かせた。

バレーボールでは、地道に特訓を重ねてきた教務チームが「やるかな」と思わせたが、二回戦止まり。やはり、春季だけは何か強い5Mと、このところ身を潜めていた5Aが対戦することとなった。結果は5Mのストレート勝ちであった。

テニスでは、ここでも波乱が起った。例年、圧倒的な強さをみせて勝利を掴んでいた教官チームが、

◇総合優勝学科 機械工学科 (体育局長 田中 穂)

成績はつぎのようにまことに立派なものであった。

やり投げ優勝 5M松尾淳51m94

円盤投げ2位5M中島良介44m28

100m 4位3C野畑光晴11秒1

柔道(個人の部)軽量級

2位5A林正道

全国制覇をなした松尾は昨年全国2位の無念を見事にはらした。円盤投げ2位の中島は連覇を狙ったが、大会新(45m88)を出した佐世保の高次君に敗れた。まことに惜しまれる。100mの野畑も地区大会での記録を縮めたが、あと一歩とどかなかつた。

柔道の林も健闘し堂々の2位をかちえている。

この4名の全国大会までの練習は、炎暑のなか連日自分との戦いであつた。陸上の3名は黙々とグラウンドで汗を流し、柔道部は林一人のために合宿を組んだ。その姿は見る者の胸を打った。

この努力があつて始めて、この成果ありといえよう。

それにしてもJRで約22時間かけて行った秋田はさすがに遠かつた。明年は久留米・北九州・有明の三校で全国大会を担当する。地の利がある。体育系クラブ全員の奮起を期待する次第である。

●第17回西日本地区高等専門学校弓道大会

期日 7月24日(金)

主管校 高知高専

会場高知県立弘徳館弓道場

区でも状況は同様で、福岡であつた硬式野球など初日だけはなんとかやれたが、あとは到底試合ができず、一週間おいた24日に再開するという状況であった。

選手諸君にはまことに気の毒でも上記のような戦績をあげたことは、昨秋以来の努力が実を結んだものとして高く讃えたい。なお各会場に激励に駆けつけたり資金を送って下さったりした先輩諸氏、ならびに選手輸送その他ご尽力いただいた関係各位に心よりお礼を申しあげる。

以下に成績を示す。

●陸上競技・佐世保市総合グラウンド陸上競技場

順位予選リーグ2位、優勝都城

予選リーグ

有明9中1中久留米

有明6中10中都城

個人戦 5位5A桜井孝弘

女子は入賞なし

●第9回全国高等専門学校通信号大会

期日 7月1日～8月15日

(各校に一任)

主管校 北九州高専

○団体

有明60射13中 入賞ならず

北九州60射44中(優勝)

○個人 入賞ならず

●第14回九州地区工業高等専門学校ハンドボール大会

期日 7月19日(日)

主管校 八代高専

会場 八代市総合体育館

順位準優勝、優勝八代

2回戦 有明22-11都城

決勝戦 有明7-24八代

●第3回九州地区国立工業高等専門学校硬式庭球大会

期日 7月18日(土)・19日(日)

主管校 久留米総合スポーツセンター県立テニスコート

順位予選リーグ2位、優勝佐世保

予選リーグ

有明1-2鹿児島

有明3-0久留米

○個人戦 ダブルスではベスト4進出ならず。シングルスでは

4A里崎清光がベスト8入り

予選リーグ

有明1-2鹿児島

有明3-0久留米

○個人戦 ダブルスではベスト4進出ならず。シングルスでは

この日、空は青かった。肌寒さを感じたけれども、影はいよいよ濃さを増してきた。そしてスタートのピストルの音によって、昭和62年度体育記録会の幕は切って落された。この時が来るのをどれだけの人が待ち望んでいた事か。

M君は一人黙々とトラックを走り続け、S君はハイジャンプのパイで背中の皮をむき、T君は唯、砂を眺めているだけだった。陸上競技は、リレー以外は完全な個人競技である故、個人個人の精神の強さが勝負を握ると云われる。

これは、社会でも同じ事が云えるのではないかと思う。

何の拘束もない無責任な学生時代には感じ得なかつた責任感を、社会に出て体感する時、それを乗り越えられるか、やりきれぬかと云うことは、精神力の強さに比例する様に思われてならない。勿論その精神力の裏付けとして自信がなければならぬ。己れを信じる事が出来なければ、何も信じられないのは当然の事である。何をもって自信を成すかは個人の自由であらう。学力に自信をつけるもよし、体力に自信をつけるもよし、何であらうと構わないと思う。

記録会で、華々しく栄冠を勝ち取られた方々は、その自信を胸に

刻まれた事と思う。また惜しくも敗れた方々も、次は負けまいと思ふその心は、自分の身をその場に安穏として置く事を好まず、更に上昇する筈である自分を信じ切っている心、即ち自信ではないでしょうか。何はともあれ、記録会に参加して頂いた皆さんに感謝いたします。

そして、記録会を運営するにあたって協力して頂きました、主事室、体育科の先生方、学生係、教務係の職員の方々、テープをかけて下さった放送のお姉さん達、そして、遅くまで残って準備に当たってくれた陸上部員と、学生会執行部の皆に一言、どうもありがとう。

この日、空は青かった。

○体育記録会成績

○100m 3C野畑 11"35

○200m 5E松永 24"80

○400m 5M六倉 55"20

○千五百m 1C平川 4'39"09

○四百mリレー 5M 4'49"90

○八百mリレー 5M 1'43"20

○男子ハンドボール投げ 5M松尾 39m40cm

○女子ハンドボール投げ 5C井藤 24m82cm

○走り高跳び 4C藤田 1m86cm

○走り幅跳び 5E松永 5m75cm

○学科対抗リレー 機械工学科 優秀クラス 4C

○最優秀クラス 5M

去る5月21日(木曜日)に球技大会が行われ、終日、順当勝あり番狂わせありの熱戦のうちに無事終了した。

種目は、ソフトボール、バレーボール、テニス、卓球の4種目で日頃のうっぶんを晴らすべく熱戦を繰り広げた。

ソフトボールでは、優勝候補と目されていた5Mが不運にも二回戦で教官チームと対戦し、敗退。そして、我々との体力差のハンデを練習とテクニクでカバーした事務チームが決勝まで登りつめ、ラッキーな試合をしてきた大穴の5Eと対戦することとなった。しかし、試合の方は、全学生の注目を集めながらも、やっぱり5Eはラッキーだったのだと、皆を領かせた。

バレーボールでは、地道に特訓を重ねてきた教務チームが「やるかな」と思わせたが、二回戦止まり。やはり、春季だけは何か強い5Mと、このところ身を潜めていた5Aが対戦することとなった。結果は5Mのストレート勝ちであった。

テニスでは、ここでも波乱が起った。例年、圧倒的な強さをみせて勝利を掴んでいた教官チームが、

何と予戦リーグを全敗で終った。そして同リーグの5Cが、他を寄せ付けず執念の優勝を勝ち取った。最後に、卓球では、例年の混戦は見られず、両リーグとも圧勝して2Eと2Aが対戦し2Aが優勝した。なお、残念なことであるが、卓球においては春季球技大会則第一條「個人の多種目出場を禁ずる」を破る反則行為が2年生の他のクラスにあったことを付け加えておこう。

私も数々の球技大会を観てきたが、テニスにおいてこれ程仰天した事はなかった。皆も明日の勝利を目指して日夜励んで頂きたいと思えます。

最後に、準備から進行、後片付けまで協力して下さい方々どうもありがとうございました。

○球技大会結果

- ソフトボール
  - 優勝 事務チーム
  - 準優勝 五年電気
  - 個人賞 坂口 誠
- バレーボール
  - 優勝 五年機械
  - 準優勝 五年建築
  - 個人賞 川野 智幸
- テニス
  - 優勝 五年化学
  - 準優勝 五年機械
  - 個人賞 中山 幸二
- 卓球
  - 優勝 二年建築
  - 準優勝 二年電気

個人賞 巻口 義人  
優秀クラス 五年電気  
最優秀クラス 五年機械  
(体育局長 田中 穂)

第20回九州地区  
高専英語弁論大会

今年の九州英語弁論大会は、七月二十四日、熊本電波高専で行なわれました。我が有明高専からは、一年、二年、四年それぞれ一人ずつ計三名が出場しました。

この弁論大会は当日会場へ行くのではなく九州各地から集まって来た代表者たちが前日から同じ宿舎に泊まり、共に食事をしながら交流をはかるといふものです。

当然、話の内容も翌日の弁論大会のことや前回出場したときのことが多かったようです。

大会にはスピーチとレシテーションがあるのですが、スピーチに出る人は今までずっと毎年参加しているという人が多く熱心な人ばかりでした。

さて、当日の弁論大会は、何と私が一番最初でした。終わってみると何とも呆気ないものでした。

次々と他の参加者たちを聞いていて気付いたのは、非常に練習しているということでした。しかし、内容が難しく言っている本人も何度か繰り返し読んで分かつていないのではと思ってもみました。それというのも、特に外国語ですと

いふのは難しいと思うのです。それを敢えてやろうというので、すから素晴らしいと思えました。

2E古閑かおる

第24回四高専  
合同演奏会

私達吹奏楽部は去る7月24日から7月27日までの4日間、久留米高専での合宿練習のあと、7月28日(火)に久留米石橋文化ホールにて開催されました。四高専合同演奏会に参加しました。

この「四高専合同演奏会」とは毎年7月下旬から8月上旬ごろ行われ、参加校は、北九州高専、久留米高専、大分高専、そして有明高専の4校で、演奏者が総勢100名を越えるというスケールの大きなものです。参加校同志が遠く離れていきますので、各高専ごとに約4ヶ月の練習の後、6・7月には、日曜日ごとに久留米高専に集まり合同練習をしています。そして夏

休みに当番校の体育館や寮などを借りて、約1週間の合宿練習で曲を仕上げ、演奏会を迎えるわけですね。100人で演奏するブラスなんてめったに聞けるものではありません。

んし、実際、レベルも高く、全員での演奏は相当な迫力です。しかし、毎年順番で4校のうちの1校を当番校と決め、その当番校の地元の会場を借りての演奏会となるため、本校から聴きにきて下さる方がごくわずかなのが、とても残

念な事です。会場は多少遠くなりませんが入場料は無料ですし、一度聴きにきて下さったら、「また来年も聴きにいらおう」と思ってもらえるはず。演奏者全員のこの演奏会に対する情熱と努力は、相当なもの。これを讀まれた皆さん、ぜひ一度聴きにきて下さい。

部長 4A 小宮園枝

編集後記

石橋助吉先生と城戸英彦先生は共に今年の三月工業化学科を退官された。両先生のお言葉は、本当は前号に載せる予定にしていたのだが、連絡の手違いで本号になってしまった。申し訳ない。ただ、編集子が見逃したために、両先生の近況を知ることができたのは、「怪我の功名」だと思っている。

石橋先生は現在も非常勤講師として来校中なので、たまにお話してくることもあるが、城戸先生の聲に接することはまったくない。原稿をお読みしながら、先生のあの熱血あふれる肉声を聞いているような気におそわれた。お元気で御活躍の様子によりである。

大石豊二郎先生がおなくなりになった。先生が教務主事として御活躍の頃は、気力が充実しておられたのだろう、小柄な身体ながら、非常に大きく見えたものである。押し出しが良く、ちよつとハツタりもあって、政治性のある名主事であった。その先生も今や彼岸の人。「生死は世のならい」とは言

いながら、無常なものである。野仏の

糸引くお目や曼珠沙華

野村喜舟

野村喜舟